

医業の現場から 経営

file044 中国・四国地区

家庭と両立できる仕組みを 勤務環境の整備から

医療と家庭の 両立を目指した開業

徳島市の中心部に2018年4月に開業したばかりの高橋クリニックは、泌尿器科を専門とする高橋久弥院長と、耳鼻咽喉科を専門とする高橋美香副院長が、それぞれの専門性を生かして地域に貢献していくことを掲げるクリニックだ。

大学病院の第一線にいたお二人だが、親の介護の必要性和子育てが大切な時期を迎え、勤務医を続けるべきか迷っていたところ、「地域医療に貢献しながら家庭との両立を目指す道もある」との助言を得て開業を決断した。「おかげで子どもの学校のすぐ近くに自分のクリニック

を持つことができました。子どもの顔を見ながら、それまでの経験を生かした仕事ができ、開業してよかったと思います」と高橋副院長はその良好な勤務環境を実感している。

開業には、紹介を受けた医業経営コンサルタントの力を借りた。「経営面の計画については全面的にサポートをお願いしました。おかげで開業直前まで大学で医療に専念することができました」と支援について評価する。

細やかな勤務環境への 配慮が随所に

経営者自らが家庭との両立を目指す同クリニックでは、スタッフへのサポートにも随所に工夫がみられる。「スタッフは20代から40代までいます。まずは、各自の得意分野を相互に補完して、誰が休んでも業務を回せる体制づくりに取り組んでいます」

と、開業からまだ日が浅いが、すでにスタッフの勤務環境改善に取り組んでいる。待遇面では、来院患者数の増分をボーナスで還元するポイント制を導入した。「業務量が増えた分をきちんと還元することで、やる気のアップにつながればと思っています」。ちょっとした気配りだが、スタッフが休憩時間を利用して買い込んだ食材を保管するための専用の冷蔵庫や、休憩室には仮眠設備もある。また、スタッフ専用の出入り口は、「学校の参観日など気兼ねなく抜け出せるように」と設けた。

「設計では、スタッフルームとキッズルームを広くすることが、一番譲れないところでした。スタッフ募集では、子育てとの両立支援を前面に打ち出して、それを見て応募してきたスタッフもいます」という。思いを共有できるスタッフが集まっている点を踏まえれば、院内のチームワークも良好であることは容易に想像できる。「患者さんからは、こちらのスタッフはみんな笑顔で親身になってくれると言われます。それは楽しく仕事をしているからだと思います」。

地域での連携と広報

開業から約2カ月、来院患者数は当初見込みよりも多く両

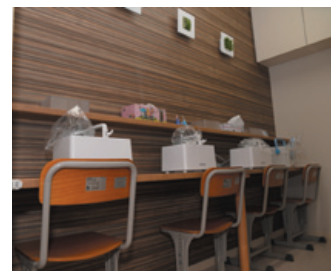
高橋クリニック 概要



- 所在地
徳島県徳島市山城町西浜傍示 162-1
- 院長
高橋 久弥
- 診療科
泌尿器科、耳鼻咽喉科



広く明るいキッズルーム



ネブライザー室は、診察室の話が聞こえないよう窓付きドアで仕切られている

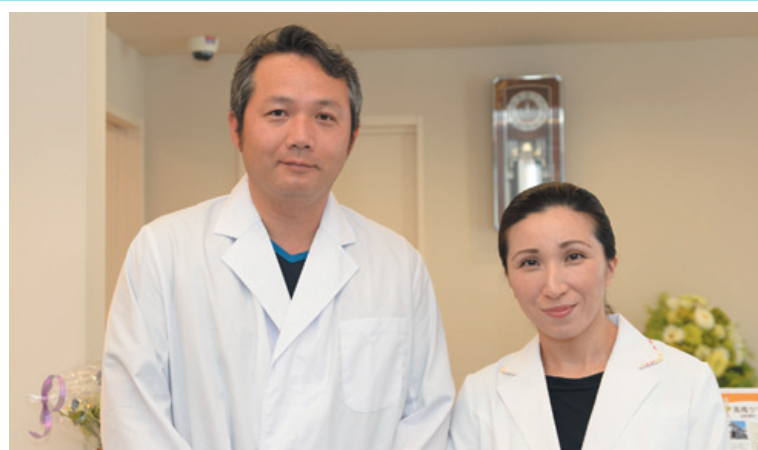
科合わせて1日平均30人。多くは近隣からの新患だが「『3分診療で病気の説明を詳しく受けたことがない』とおっしゃる方が多いので、意識してできるだけ丁寧に診察をして患者さんに詳しく説明するようにしています。その気持ちは忘れないようにしたいと思っています」。

足場固めに邁進しつつ、地域連携を念頭に週に1回は、徳島大学病院や県立中央病院での手術も行っている。中央病院のがん治療の連携先施設にもなっており、今後は入院治療後のフォローが増える見込みだ。

一方で近隣開業医との横の連携もすでに進んでいる。「泌尿器科だけを掲げ、あえて内科を標榜しませんでした。その方が紹介も逆紹介もしやすいと思っています」と、役割を明確にして地域貢献に臨む姿が印象的だ。さらに副院長は、遠方4校の学校医も引き受けている。「直接の受診には結びつかないかもしれませんが、地域の方に知っていただくことにつながると考えています」。子どもたちとクリニックの距離を縮めることで、地域貢献と広報活動を両立して展開するという開業成功へのヒントが見えた。



スタッフには職種別や上下関係を設けていない



院長 高橋 久弥 氏 / 副院長 高橋 美香 氏

■院長 高橋 久弥 氏

1997年浜松医科大学医学部医学科卒業、2014年徳島大学大学院医学教育研究部医学専攻卒業、医学博士号取得。浜松医科大学医学部附属病院泌尿器科、富士宮市立病院泌尿器科などを経て、健康保険鳴門病院泌尿器科医長、徳島大学病院泌尿器科助教、徳島市民病院泌尿器科主任医長などを歴任後、2018年4月より高橋クリニック院長（泌尿器科担当医）。徳島県立中央病院泌尿器科非常勤医師。

■副院長 高橋 美香 氏

2002年高知医科大学医学部（現：高知大学医学部）卒業。徳島大学医学部耳鼻咽喉科入局・研修、2003年田岡病院外科・救急科研修後、徳島大学病院耳鼻咽喉科医員、診療支援医師、助教を歴任。2018年4月より高橋クリニック副院長（耳鼻咽喉科担当医）。徳島大学耳鼻咽喉科非常勤講師（専門外来に従事）。

組織はフラットに

開業後も、経営面は全面的に医業経営コンサルタントが支援している。「経営の実務はお任せして、我々は自分たちの領分で働きますという感じです」と支援する医業経営コンサルタントに信頼を寄せている。

また、組織面では、「看護師長は置かずに、私（副院長）が方針を示して皆に伝えています。組織はありますが、看護師と事務職員の関係もフラットです。スタッフ間で上下がある必要はないと思っていますし、小さな組

織だからこそフラットな関係のほうが相互に意見などを出しやすく、プラスに働くとおもいます」と組織構成は明快だ。

夫婦で経営を担ってほしいとの思いとスタッフへの配慮が行き届いた勤務環境の提供、そして地域医療への貢献という明確なビジョンを掲げ取り組む同クリニックが、これからどのように発展していくのか。今後の展開が期待される。



今後ますますの増患が予測されるが、「患者の話に耳を傾け、丁寧にわかりやすい診察を、医療の原点として忘れないようにしたい」と高橋院長は話す



大きな耳が特徴の「フェネックギツネ」をイラスト化したクリニックのオリジナルキャラクター。「グッズ作成にもこだわりました。クリアファイルは、病院の名前が大きく入ったものでは子どもは喜んでくれないので、わざと目立たないように小さく入れて、学校でも使ってもらえるようにしました」（高橋副院長）